『三島村竹島からの発進・発信～独立して６年～』

三島村漁業協同組合　　日高　太

１　地域及び漁業概要

三島村は薩摩半島南端の長崎鼻から南南西約 40km の位置にある竹島・硫黄島，坊ノ岬から南西約 50km の位置にある黒島の三島及び無人の新硫黄島等から成り立っており，九州南端から南西にのびる南西諸島の最北部に位置している。気象は，おおむね亜熱帯的海洋性気候で，東は太平洋，西は東シナ海に面し，黒潮の影響を受け気候は極めて温暖である。しかし，台風の進路に当たり，また，冬の季節風が強いため四季を通じて風潮害が極めて大きい。人口は三島計で 408 名（H17 国調）。農業では畜産が主で，三島の黒毛和牛は市場で高く評価されている。林業では豊富な森林資源や竹林資源を利用し，竹の子生産加工を行っている。

図１　位置図

竹島は，鹿児島港から約３時間，鹿児島市に一番近い島である。周囲 9.7km，面積 4.2 k ㎡で，最も高い山でも 220m という平坦な，竹島という名のごとく島全体が竹に覆われた畜産の盛んな島である。人口は，三島のうちで最も少なく 75 名である。

三島村漁協は，組合員数 76 名（正組合員 25 名，准組合員 51 名）で，主な漁業種類は，一本釣り，刺網等である。平成 19 年度の水揚げ量は 3.7 ｔ，水揚げ金額は 668 万円であり，最も水揚げ額が大きい魚種は，イセエビである。

島の周辺は，天然の瀬礁が多く好漁場に恵まれているが，経営規模が小さく，これらの資源を生かしきっていないものもある。

２　漁業就業と複合経営

(1) 手伝いから自立へ！

私は，昭和 56 年７月鹿児島市に生まれ，小学１年から高校卒業まで，屋久島安房で暮らした。海が大好きで，高校在学中には休みを利用して，地元トビウオ漁の手伝いで乗船することもあり，ここでトビウオロープ曳き漁法について学ぶことができた。魚群の探索や潮の流れの把握など，現在の一本釣りにも通じる漁業の基礎を学ぶ良い機会であった。

高校卒業後，鹿児島市で一旦，ガソリンスタンドの仕事に就いたが，強い漁業へのあこがれから，約２ヶ月ほどで父の住む竹島へ移住した。

当初は，父の漁業を手伝う形で，一本釣り漁業や刺網漁業，素潜り漁の見習いをした。操船やロープの結び方，道具の作り方や漁場の特性，魚の突き方等，父から詳細を教わった。

２年ほど経過した平成 14 年，21 歳の時に 0.9 ｔの漁船を知人から譲り受け，徐々に単独で漁を営むようになった。

さらに４年が経過した，平成 18 年，25 歳の時に漁船の大型化を決断した。0.9 ｔでは，船が小さく，北西の風が強い場合には港を出られない日もあり，沖合へ出るために少し大きな漁船が必要となった。そこで漁業経営改善資金を利用し，中古船（2.9 ｔ）を天草から購入した。

図２　『智世丸』（2.9ｔ）

多少の不安もあるが，自分で船を購入し，一人で漁に出ることで，自覚が芽生え，より多くの漁をしようと工夫と努力をするようになった。

父の見習い時代，0.9 ｔ漁船の時代，自分で購入した漁船と時間の流れとともに，少しずつではあるが腕も磨かれ漁も本格化するようになった。さらに，乗船研修等も実施し，他地区における一本釣りの技術を学んだ。

その様な状況ではあるが，島での漁業経営は決して恵まれているわけではないことから，収入に繋がる仕事をいろいろと請け負い，自分の仕事としてきた。現在畜産では，黒毛和牛を７頭，父の持ち分と合わせ 27 頭を飼育している。また，村営船の離接岸の際の荷役作業も行っている。時には港湾工事等の際に現場の見張りや連絡船としての傭船を受けたりする他，島に住む少ない若手として，力仕事等の依頼も受け入れている。

自分が生活する島なので，自分が力になれる部分は，積極的に協力していきたいと考えている。

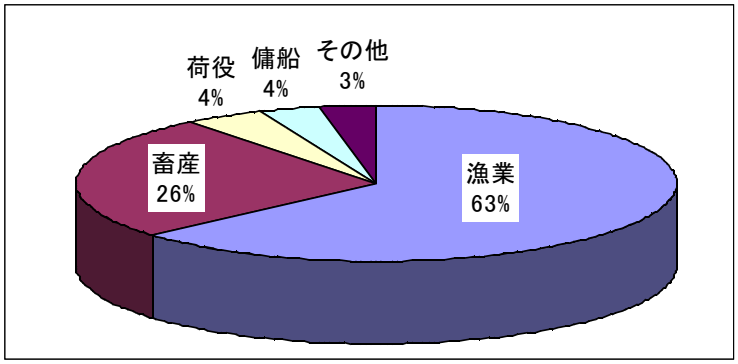

図３　業務別収益の内訳

(2) 地域資源を活かす！（漁業の操業形態）

現在，主な漁法としては，一本釣り，刺網，素潜漁を営んでおり，季節や天気，漁模様を見ながら取り組んでいる。天気がよい場合には，刺網の揚網，投網，漁場を変えて一本釣り，沿岸での素潜漁と，１日３つの仕事をこなすこともある。

表１　組み合わせ漁業

漁業種類／月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一本釣漁業	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
刺網漁業	―	―	―	―				―	―	―	―	―
素　潜　漁	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

主な漁獲物は，一本釣りではハタ類，刺網ではイセエビ，素潜漁ではイシダイやメジナなどを漁獲している。

水揚げ量，水揚げ金額ともに多いのはイセエビである。

一本釣りにおいては，型の良いアラが釣れれば，単価も高いため高収入となるが，バクチ性が高く，その一方で，小型のハタ類は，量も単価も比較的安定しているので重要な魚種と考えている。刺網でイセエビが安定的に獲れ，単価も高値で安定すれば最も活用できる資源と考えている。

図４　イセエビ刺網の様子

(3)島内販売の取り組み

竹島は以前から魚介類の需要が多い島で,漁獲物のほとんどが島内で消費される。我々生産者にしてみれば，島内で消費されれば，運賃と時間をかけて鹿児島へ送る必要はない。２日に１度鹿児島へ向かう村営定期船とのタイミングが合えばイセエビやハタ類等の高級魚を鹿児島市場へ送ることもあるが，ほとんどが島内消費であり，民宿の他，一般の家庭で消費されている。一般の家庭では，本土に住む家族や親戚への贈り物とする場合も多い。

図５　刺網で漁獲されたイセエビ

島内での販売形態は，島内放送で周知を行い，獲れたての鮮魚を港で販売している。価格について，以前は魚種とその時の漁模様により，その場で決める場合がほとんどであったが，売る側も買う側も目安になる価格表があった方が良いとの考えから，竹島の若手の仲間３人と協力して平成 19 年９月に『竹島青年潜人(ｽﾞﾌﾞｲ)組合』を結成し，価格表の取り決めを行った（表２参照)。

『竹島青年潜人組合』結成後は，４人の組合員が刺激しあって操業日数も増え，漁獲量も増え，その結果，漁業収益も増加傾向にある。収益の大半は『潜人組合』として積み立てており，今後，事業を展開していく資金として考えている。また，島民も価格表により気兼ねなく購入できるようになった。

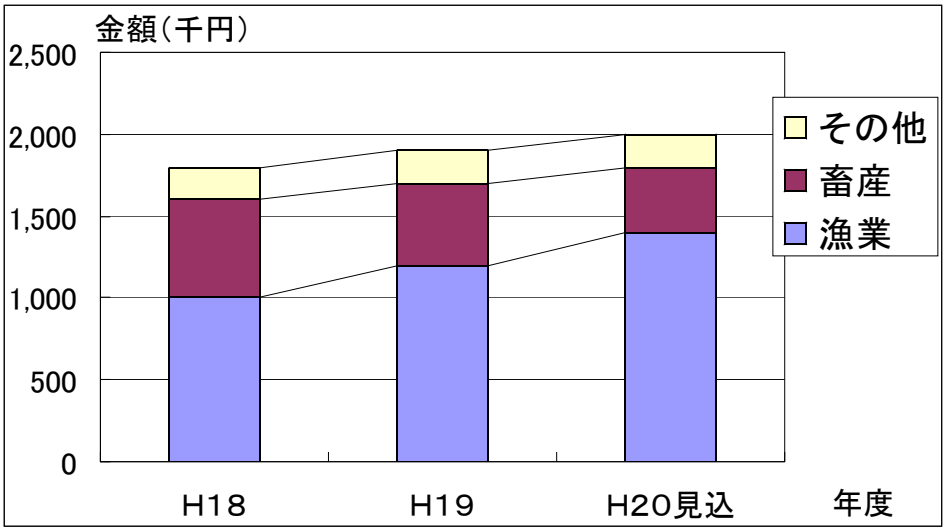

図６　業務別収益の推移

３　漁業を中心とした取り組み

(1)離島漁業再生支援交付金の活用

平成 17 年度から水産庁の『離島漁業再生支援交付金』事業がスタートした。三島村ではこの事業を取り入れ，５ヶ年の事業に取り組んでいる。

竹島では，主な活動として，サバヒー餌料試験，シラヒゲウニ放流，漁場監視，海岸清掃等を行っている。

サバヒーを活餌として使用した一本釣りでは，ハタ類などで有効であり，地元で餌不足の際は活用できると思われる。

シラヒゲウニは，３島で計 10,000 個の放流を実施している。天然の大型個体が港内にいるが，放流後の追跡調査では，放流物の定着は見えていない。餌料環境によるものと推測している。

図７　港内にいるシラヒゲウニ

漁場監視は，年に２回程，イセエビ時期を重点に監視旗を掲げ実施している。その他，不審船を見た場合は漁協に連絡を取る等，常に監視の目を光らせている。

海岸清掃は，年に２回，島民にも呼びかけを行い実施している。また，海上の浮遊物等については，その都度回収を行っている。

(2)三島村藻場造成研究会

三島村の豊かな資源を守っていくことを考えたときに，最も基礎となる海の環境を守ることが大切だと考える。また，離島交付金事業においてシラヒゲウニを放流しても十分な定着が見られないことは，藻場等の減少による影響ではないかと思われる。

そこで，平成 20 年３月に「藻場と藻場造成に関する研修会」を開催し，その後，水産資源の保護培養に関する知識の普及，技術の開発等を行うことを目的に『三島村藻場

造成研究会』を立ち上げた。

藻場造成に取り組む前段階として，ヒジキやワカメの増殖試験に取り組む計画を立て実施することとなった。この計画については，「日本水産資源保護協会事業」を導入し，現在実施している。

4　今後の取り組み

(1)島内販売と地域活性化

『竹島青年潜人組合』を結成し，価格表も取り決め，操業日数も増加し，島内販売にも活気が出てきた。今後は，積立金を活用し，イセエビの畜養施設等が整備できたら良いと考えている。民宿等と提携し，島に訪れた方々に竹島ならではの海の幸を提供できるような体制を築いていきたい。

(2)事業を活用した取り組み

『離島漁業再生支援交付金』事業については，平成 21 年度に終期を迎えるが，サバヒーの活餌利用等，定着しつつある。今後は，村が実施している小学生の体験事業への協力や魚食普及・地産地消を目的とした学校給食への材料提供などを実施していくこととしている。人口の減少，漁民の減少が進むなか，我々の活動に助成いただけるありがたい事業である。この事業の予算を活用して，新たな取り組みを行うこともできるので，積極的に活用していきたいと考えている。

図８　ヒジキ増殖試験

また，「日本水産資源保護協会事業」の導入については，現在，実施途中であり，結果を見なければわからない部分もあるが，今後も環境を考えた藻場造成や海藻の増殖試験等に取り組んでいきたい。

(3)今後の『夢』

父の手伝いから，0.9 ｔの漁船へ，そして 2.9 ｔの漁船へ，漁業としても独り立ちし，仲間と共に島内での販売活動や各種事業等に取り組んできた。

しかしながら，現状では 2.9 ｔの漁船でも小さくて操業日数が制限される。さらに漁船の大型化を検討している。そうなると畜産との兼業は難しくなるので，漁船の大型化を実現できれば，漁業専業で頑張りたいと考えている。

一本釣りで沖合へ出て，瀬物釣りに力を入れていきたい。また，新たにキビナゴ刺網漁業を導入したいと考えている。船の設備や経費，台風避難の心配等も無いわけではないが，大好きな海での仕事に自分なりに精一杯努力しようと考えている。

竹島という小さな島から私の漁師生活が“発進”し，小さな島から若手漁師としての私の漁業に対する『情熱』と『情報』を“発信”していきたい。

表２　『竹島青年潜人組合』・価格表

『竹島青年潜人組合』・価格表		
魚　種　名	標準和名等	単価（円／ｋｇ）
黒鯛	メジナ	１，０００円
石鯛・石垣鯛	イシダイ，イシガキダイ	１，０００円
コンコ鯛	コロダイ	９００円
ブダイ	ブダイ	８００円
ホンゴメ	ニザダイ	８００円
アカジョ	スジアラ	２，０００円
メバル	ハタ類	１，３００円
カラスメバル	アオノメハタ	１，３００円
エメス	ハタ類（赤）	１，０００円
モブシ	ヤイトハタ	１，５００円
あら	アラ	２，５００円
メキチ	ツンブリ	５００円
コウイカ・タコ	コウイカ，タコ	１，０００円
トンジュ	ウミゴイ	５００円
タバメ	フエフキ類	８００円
エトアカジョ	バラハタ	１，２００円
ワカナ	オナガクロ	１，２００円